



平成22(2010)年2月20日(土)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama-clinic.jp

とてもいい話

インターネットで1月中旬見つけた「新聞案内人」の文に感銘したので、この小紙の通常の記事とは離れていますが、中略しながら再録します。

歴史家 作家 ^{かく}加来 耕三

本年は、日本とトルコの友好が120周年を迎え、記念事業が両国でめじろ押しだという。トルコの人々は「世界で一番好ましいのは日本」と言ってくれている。

なぜか。明治23(1890)年のことである。9月16日の夜半、一人のトルコ人が現在の和歌山県串本町大島に血を流しながら命からがらたどり着いた。暴風雨の中、船が座礁し、沈没したらしい。船は当時のオスマントルコ帝国の軍艦エルトゥール号(2300t)であり、600人を超えるトルコ人を乗せていた。日本の皇族小松宮彰仁親王がトルコを親善訪問した答礼として使節オスマン＝パシヤを乗せて派遣されたものだった。この時まで日本はトルコとの国交は持っていなかった。この輝かしい親善の帰国途中での大惨事である。

大島の人々は、すぐさま島をあげて不眠不休の救助活動を開始した。救護と捜索、けが人の血を海水で洗い、兵児帯(へこおひ)で包帯し、ひとりずつ背負って約60名の断崖をよじ登り無我夢中で助けた。助けられたトルコ人は全69名、救助の甲斐無く亡くなった人は587名。この惨事はすぐさま日本中に新聞で伝えられたので当時の日本人は我がことのように涙した。明治政府の反応もすばやく、亡くなった人達の葬儀と埋葬を行い、10月には遺骨と生存者を乗せ、軍艦2隻を出動させてトルコへ運んだ。

この時、一人の無名の日本人青年が東京でこの惨事を知った。「はるばる海を越えて、国交のない日本を訪ねながら亡くなったのは余りにも気の毒だ。なんとか遺族を慰められないものか。」

24歳のこの青年は義捐金(ぎえんきん)を集めに奔走し、僅かの中に5000円を集めた。現在なら3000万円弱といったところであろうか。見知らぬ異国の人々をかわいそうだと慈(いっく)しんだ日本人がこの頃にはこれほどまでにいたのだ。青年はこの義捐金を外務大臣 青木周蔵に届けた。すると青木は「君がトルコへ持っていけ」という。政府の応援を得た青年は25年1月横浜を出港。

スエズ運河を北へ、エジプトを経て、トルコの帝都イスタンブールに到着した。青年の出現に皇帝は大喜びし、異例の拝謁が叶った。皇帝は青年に「我が帝国の陸海軍の士官に日本語を教えて貰えないか。代わりに貴下にはトルコ語を学んで欲しい」と語りかけた。

16世紀、アジア、ヨーロッパ、アフリカにまたがる大帝國を築いたオスマントルコも19世紀に入るとヨーロッパの列強に侵略されるようになり、露土(ろと=ロシアとトルコ)戦争(1877~78)ではバルカン半島の領土の大半を失っていた。無名の日本青年=山田寅次郎(1866~1957)は4年間トルコに滞在し、日本に戻ったが両国の民間外交にその生涯を送っている。

日本人が示した献身的な救助、支援活動はトルコの人々の中に多大の親日感情を育てた。「中央アジアから西に向かったのがトルコ人で東に向かったのが日本人」と彼らは言う。

(当紙、133号。平成19年4月20日発行の「兄弟の国」をご覧下さい。)加えて、ロシアの南下政策に日本と同様苦しめられていたオスマントルコは、日露戦争で「アジアの小国が大国ロシアに勝利した」ので日本への好感情を急上昇させた。

トルコの人々の日本人に向ける変らぬ暖かいまなざしを知らされたのは昭和60(1985)年のイラン・イラク戦争が勃発したおりのこと。イランへの空襲が予告され、各国の航空会社は各々自国民を優先して搭乗させ、テヘランから飛び立った。この時、日本航空は帰りの安全が保証されないから、自衛隊は海外派遣が許されないから、と言って救援機を出さなかった。(イランにはまだ日本人が215人もいたのに。)日本人は焦燥と不安の中に孤立する。まさにその時である、飛行機が2機、テヘランの空港に舞い降りた。そしておののく日本人を乗せた2機の旅客機はイスタンブールへ飛び立った。トルコ政府からの特別機であった。トルコの人々はいまだ明治23年の恩を忘れていなかったのである。

☆ 身近な所では歴史的事実として次のような記録があります。

- 1) 明治33(1900)年1月12日、韓国の商船が小浜市泊の沖で難波した。泊の村の人々は献身的に救助し、水と食事を与え、8日間、滞在させて全93人を無事帰国させた。
- 2) 大正13(1924)年12月12日には越前、南条郡河野村糠(ぬか)の沖で日本海軍の特務艦「関東」が難波、岸にたどり着いた乗組員を村の女性が肌で暖め、110名を救命したが、97名は行方不明と死亡者となった。

《あとがき》 今月14日からカナダのバンクーバーで冬季オリンピックが開催されています。日本人の活躍は嬉しい限りです。メダルの数ではないな、と思うシーンが多くありました。